

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02346

研究課題名(和文) ステートとヴァリエント - 版画の潜在的な性能を積極的に応用した新たな表現の創出

研究課題名(英文) state and variant

研究代表者

田島 直樹 (Tajima, Naoki)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：50292545

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：セーヘルズ銅版画の「ヴァリエント」の性質について「HERCULES SEGERS PAINTER ETCHER」展カタログ(2016-17)を資料の主軸に据え7種類に分類した。この分類をもとに、5枚のテストピース(実験用銅版)を使用して、同一版から生まれる様々な表現効果について実験を行い、計60点の「ヴァリエント」に関するサンプルを制作した。また、制作過程としての「ステート」を提示するために、複数の試し刷りを立体的に構成した作品を3点制作し、展覧会で発表した。更に「ヴァリエント」の性質を応用したワークショップを開催し、1枚の版から生まれる様々な表現の可能性を参加者と共有することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、版画の副次的産物である「ステート」と「ヴァリエント」に焦点を当て、両者が持つ潜在的機能を抽出し、それらを積極的に活用して新たな版表現を開拓する事を目的として行った。主にヘルキュレス・セーヘルズが残したヴァリエント作品の分析と制作プロセスの解明を中心に研究を進めた。一般的に銅版画は黒一色で刷られ、複数性の性質が認識されているが、色彩を用いて様々な方法で刷ることによって多様な表現が可能であり、一点ものとして魅力的な作品が生まれることが実験制作を通して実証された。今後は、ワークショップの開催や新たな視点による版画作品の鑑賞方法の紹介等を通して、本研究の成果を社会に広く還元していきたい。

研究成果の概要(英文)：The nature of the "variant" in Segers copperplate prints was classified into seven types, using the "HERCULES SEGERS PAINTER ETCHER" exhibition catalog (2016-17) as the main source of data. Based on this classification, I used five test pieces (experimental copper plates) to experiment with the various expressive effects produced by the same plate, and produced a total of 60 samples related to "variant". In addition, in order to present the "state" as a production process, I produced three works composed of multiple test prints as a sculpture, which were presented at the exhibition. Furthermore, I held a workshop applying the properties of "variant" and were able to share with the participants the various possibilities of expression that can be created from a single plate.

研究分野：銅版画の制作研究

キーワード：ステート ヴァリエント 銅版画 版表現

1. 研究開始当初の背景

(1) ステートについて

ステートとは、版画の制作途中の段階において、加筆や修正によって図像が変更された際、それを確認する為に行われる試し刷りのことである。しかし、ステートを単なる試し刷りとしてではなく、版画表現特有の性能として、作品の自由な展開に活用した作家が存在する。そこで平成22～24年度に科研費基盤研究(C)に採択された「ステートの性質に関する研究 - “過程芸術”としての版画の可能性について-」では、研究対象として、19世紀フランスの銅版画家シャルル・メリヨン(Charles Meryon, 1821～1868)に焦点を当て、彼が残した数多くのステートから16作品・141ステートに研究対象を絞り、調査を行った。その結果、メリヨンのステートには4種類の異なる性質が存在することが確認できた。

(2) ヴァリエーションについて

版画作品を刷る場合、そこにはインクの調合・インクの拭き取り方・プレス機の圧力・紙質・紙の湿し等、様々な要素が複雑に絡み合った行程が存在する。こうした行程を応用し、刷りによる効果の違いをあえて強調し、「版」が持つ可能性を導き出そうとするのがヴァリエーションである。ヘルキュレス・ピーテルスゾーン・セーヘルス(Hercules Pietersz. Segers, 1589/90～1633/38)は銅版画のエッチング技法黎明記に独創的な発想による作品を残したフランドルの画家である。それまで、モノクロームの線描表現が一般的だったこの銅版画技法に色彩の光をもたらした。セーヘルスの版画作品は風景画を中心とした54枚の原版による183点の作品が知られている。その1点1点がモノタイプと言って良いようなヴァリエーションを持つのが特徴である。これまで国内外において上記のような版画のステートやヴァリエーションに特化した研究が進んでいるとは言い難い。本研究では、ステートとヴァリエーションの性質や機能について、制作者の視点を加えて分析を行うことにより、この分野の研究の端緒となることを目指す。

2. 研究の目的

本研究は、版画の副次的産物である「ステート」と「ヴァリエーション」に焦点を当て、両者が持つ潜在的機能を抽出し、それらを積極的に活用して、新たな版表現を開拓する事を目的としている。「ステート」とは版画の制作過程で生まれる“段階的試し刷り”の事であり、本来は完成作品の陰に隠れ表に出る事はない。また、「ヴァリエーション」とは、完成した版を用いて様々な刷り方を試して生まれる“異版刷り”の事であり、版画本来の性能である複数性からは逸脱している。しかしながら、「ステート」には“創作の記録としての過程芸術”の機能が、「ヴァリエーション」には“完成後も変化を継続できる可変芸術”の機能が備わっている。本研究では、これらの機能に着目し、作家研究と制作実験を軸として、既存の版画の枠組みを超えた新たな表現の可能性を提示することを目的とした。

3. 研究の方法

これまで応募者が行ってきたステートとヴァリエーションに関する研究を更に発展させるべく、理論と実践の双方向から以下の3項目を基軸に据えて研究を進めた。

(1)セーヘルスのヴァリエーションに関する調査（資料調査）

セーヘルスの版画作品は、筑波大学附属図書館所蔵の作品集「HERCULES SEGERS The Complete Etchings List of Plates」に高精細印刷で再現された図版が収録されている。また、「HERCULES SEGERS PAINTER ETCHER」展カタログ(2016-17)では、セーヘルスの版画作品に関する研究者による検証結果が記載されている。これらの資料をもとに、セーヘルスの試みた革新的な技法やそこで使用された素材について分析を行った。

(2)ステートとヴァリエーションの制作実験

版画制作過程の段階的結果である各ステートの性質を見直し、ステート自体を「発表する事を前提とした作品化」へ向けて制作実験を試みた。柔らかい金属を素材とする銅版画は、一度作ったイメージに加工や修正を与えることが比較的容易であり、ステートの実験を行うにあたり適した技法といえる。こうした特性を利用して、複数の異なる手法により、各段階のステートを事前に設定した上で制作を進め、その性能を最大限活用した独自の制作プロセスの構築を目指した。

ヴァリエントに関しては、「一度完成した作品を、刷りによってどこまで変化させることが可能か」という課題について実験を行なった。インクの種類や色味はもちろんの事、支持体である紙の種類によって作品の表情がどのように変化するかについても試作を行った。

以上のように、ステートやヴァリエントの制作実験で生まれた作品を効果的に配置した展示方法についてシミュレーションを行い、最終的には、実験作品及びそこから派生した作品による展覧会を開催した。

(3)ステートとヴァリエントの性質を応用したワークショップの開催

版画は「刷り」によって制作者の試行錯誤を記録として残す。そしてステートは、創作の記録でありながらも独立した作品として成立し得る。またヴァリエントは、一度完成したはずの作品が更に変化し続けていく事で、創作を継続する事で生まれる新たな可能性を提示する。実験制作で得た結果を応用して、1枚の銅版画作品が刷り方によってどのように変化するかというテーマで大学生を対象としたワークショップを開催した。ヴァリエントがもたらす版画の表現効果やモノタイプの要素を加えた作品の自由な展開等、多様な結果を得ることができた。

4. 研究の成果

(1) セーヘルズ銅版画のヴァリエントに関する分析

「HERCULES SEGERS PAINTER ETCHER」展カタログ(2016-17)を資料の主軸に据え、セーヘルズのヴァリエント作品について、①ペン描画によるリフトグラウンド、②弱い腐蝕によるハッチングを背景に防蝕材により白い描線を残す方法、③事前に染めた紙に版画をする方法、④刷った版画に油彩で着彩、⑤刷った版画に水彩で着彩、⑥カウンタープリント(イメージの左右反転)、⑦濃色の紙に明るいインクで刷る(イメージのポジ・ネガ反転)方法等に分類する事ができた。今回の資料調査により、セーヘルズのこうした独自の版画制作手法が「ヴァリエント」の生成に深く関与している可能性が高いと推測できた。

(2) ステートとヴァリエントの制作実験

○ステートについて

・2017年度作品《stealth》:11段階の「ステート」を凧の形に成形し、ワイヤーを張り、展示会場の空間に複数の作品を立体的に構成する展示を試みた。プロセス・アートとしての「ステート」のひとつの可能性を提示する事ができた。(展覧会タイトル:「分身術」会期:2017年4月24日~30日、会場:0ギャラリー(東京都))

・2019年度作品《apolo50》:8段階の「ステート」を掛け軸状に加工し、サークルハンガーに吊るして立体的に配置した。(展覧会タイトル:「Grand Prix」会期:2019年6月10日~16日、会場:0ギャラリー(東京都))

・2020年度作品《poseidon》:12段階のステートを円柱に貼り、図像の変化がスロープを流れるように鑑賞できる立体作品を制作した。

(展覧会タイトル:「state&variant」、会期:2020年12月8日~18日、会場:筑波大学研究総合棟D棟1Fギャラリー(つくば市))

○ヴァリエントについて

・2019年度作品《formula》:同一の版から6枚の版画を刷り、それらを再構成してコラージュし、更にシルクスクリーンとの併用により、複数性を応用しつつ画面に変化を与えた作品を制作した。(展覧会タイトル:「Grand Prix」会期:2019年6月10日~16日、会場:0ギャラリー(東京都))

・2020年度作品《landscape》:ヘルキュレス・セーヘルズについてこれまで分析を行ってきた結果をもとに、上記に挙げた7種類の方法による再現実験を進めた。5種類のテストピース(実験用銅板)を使用して、同一版から生まれる様々な表現効果について実験を行い、それぞれの版のヴァリエント12種類を作成し、計60作品の展示を行った。(展覧会タイトル:「state&variant」、会期:2020年12月8日~18日、会場:筑波大学研究総合棟D棟1Fギャラリー(つくば市))

(3) ステートとヴァリエントの性質を応用したワークショップの開催

ワークショップは、筑波大学芸術専門学群の版画基礎実習2(2・3年次生対象)の授業内で行った。授業課題として完成した銅版画(エッチング・アクアチント、サイズ:18×24cm)の版を応用し、通常黒インクで刷られる銅版画を色インクで刷った場合、どのような変化や効果が現れるかについて、実験的な制作に取り組んでもらった。2日間(各3時間、計6時間)で10名の学生が計45点の作品を刷り上げた。作品を並べて鑑賞することで、制作者によって使用する色や刷り方の違いが多様であり、ヴァリエントが持つ版画の可能性を再確認することができた。

(4) 報告書の作成

報告書は、主に上記(2)で示した展覧会に出品した作品の解説を中心とした作品集(筑波大学芸術系研究報告第76輯芸術研究報・作品集32・20p)を印刷物として作成した。本誌では、それぞれの作品の制作プロセスの詳細な解説や、使用した素材・技法・インクの違いとその効果の検証を行い、実験制作を中心に据えた本研究課題の結果をまとめた。

(5) 今後の課題

メリヨンのステート・セーヘルスのヴァリエントに関する実見調査

版画作品は、実見調査無くしてはその制作手法が判断できない部分も多い。何故ならば、強い圧力で刷られるエッチング作品には、腐蝕の度合いが大きい場合、図像と一緒に版面上の凹凸も紙に刷り取られるが、これはカタログなどの印刷図版やWEB上の高精細図版では再現できない。また、セーヘルスは版画用インクだけでなく、油彩や水彩絵の具で部分的に手着彩したのではないと思われる作品も多いが、図版資料のみでそれを確認するのは難しい。以上のような理由から、本来本研究においても実見調査を計画していたが、新型コロナウイルスの影響から、調査のためのヨーロッパへの渡航を断念し、制作実験を中心に据えて研究を進めることに変更した。

今後の課題として、実作品を手にとって、紙の質や種類・インクの色味・マチエルやテクスチャー・手着彩の方法など、セーヘルス版画の特徴を確認・検証する機会を新たに設けたいと考えている。



ステートの実験作品



ワークショップによる作品（一部）



ヴァリエントの実験制作作品（一部）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 田島直樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立大学法人筑波大学芸術系	5. 総ページ数 21
3. 書名 筑波大学芸術系研究報告 第76輯 芸術研究報・作品集32	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------